

基本理念

相手の立場に立つ

令和4年1月発行

106号

協和中央病院グループ広報誌

# はぐるま



謹賀新年

令和四年

本年もどうぞよろしくお願いたします

## 目次

- 新年のごあいさつ ..... 2~3
- 看護部通信 ..... 4
- 医療技術部通信 ..... 5
- 冷え性と体調管理について ..... 6
- 寒い時期を乗り越えるためには ..... 6
- 恒徳会だより ..... 7
- 外来診療担当医表／編集後記 ..... 8

# 新年のごあいさつ



社会医療法人恒貴会  
理事長  
**長山 辰治**

新年明けましておめでとうございます。

昨年一年間、新型コロナウイルス感染は日本国中、世界各国に甚大な被害を与えており、地域の医療に及ぼす影響も大きく、病院の運営環境も一変しております。私どもの病院もこれまでに経験したことのない事態に遭遇し、日々新たな対応に追われました。

院内感染防止対策のため、来院時の検温実施、マスク着用・手指消毒の徹底、面会禁止等を継続しておりますが、ご理解とご協力のほどよろしく願いいたします。また、インフルエンザワクチンについては、昨季よりも遅れたペースで供給され不足している状況ですが、新型コロナウイルスの流行によってワクチンの製造過程で滅菌に使うフィルターが世界的に不足していることが理由のようです。

しかし、シーズンを通じた供給量は昨季と比較すると少ないですが、例年と同程度が供給される見込みとなっており、コロナウイルスとは違い飲み薬もあるので重症化を防ぐことはできると考えています。また、明るい話題としてはイギリスで昨年11月に新型コロナウイルスに対する飲むタイプの抗ウイルス薬「モルヌピラビル」が承認され、自宅でも服用できるため、重症化を防ぐ切り札として期待されています。

当法人も社会医療法人恒貴会に認定されて今年で4年目を迎えるわけですが「相手の立場に立つ」の理念のもと、地域の医療ニーズにしっかりと応えられるように病院運営を進めてまいります。また、今年の干支は「寅」です。その意味するところは「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれる年になるといわれています。今年の干支にちなんで、厳しい状況を克服したいものです。

今後も予断を許さない状況が当面続きますが、明けぬ夜はないと信じて、地域の皆様とともにこの難局を乗り越えていきたいと存じます。

皆様が今年一年、幸多く、ご健康で過ごされますよう心からお祈り申し上げます。



社会福祉法人恒徳会  
理事長  
**久野 貴俊**

新年を迎え、旧年中は皆様方には大変お世話になり感謝いたしております。本年も皆様のご活躍、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

絶えず新型コロナウイルスに振り回された一年となりました。8月には第5波で、デルタ変異株が猛威を振るいました。施設をご利用の皆様にも長らく面会の制限や行事の中止など大変ご不便をおかけしております。

一方でワクチンの接種も進み第5波の収束とともに徐々に行動の制約も緩くなってまいりました。東京オリンピック、パラリンピックでの日本勢の活躍、大リーグでの大谷選手の活躍など明るい話題もありました。世の中も動き出そうとしております。

コロナによる生活スタイルの半ば強制的な変化の波を受けて、日常がどのように形を変えてゆくのか、旧来の常識が通用しなくなっています。当法人も地域にあってご利用者皆様の変化してゆくニーズに柔軟にお応えするにはどうすべきか考えてゆくことが大事です。職員一同心を込めてサービスを提供させていただいておりますので、今後も目まぐるしい変化に負けないより良いサービスができるものと思っております。

令和4年が皆様にとって素晴らしい年でありますように祈念いたします。





協和中央病院  
院長  
**黒川 徳一**

明けましておめでとうございます。この冬は海洋のラニーニャ現象のため寒い日々になるという気象予想であり、皆様体調管理してご自愛いただけますようお願い申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、コロナウイルス感染症の流行後2年経過する中でさまざまな社会変化が起きた月日でした。気候変動に伴う豪雨土砂災害や地震など、自然の厳しさを見聞きする機会も多く、日常生活でも何かしらの災害対策を考えさせられる時間が増えました。天災は“忘れる間もなく”やってくる。落ち着かない感じですが。

ポストコロナの時代は否が応でも感染症を意識した生活が続き、仕事を取り巻く環境もまだ変わりそうです。これからの私たちに大切なことを考えてみました。

### 1) 明るく生きがいを持って働ける職場を皆で創造してゆくために

自分のやっている仕事がいりいな方の役に立っているという意識を、一人ひとりが持てるのが大切かなと感じます。ちょっとしたお手伝い・気遣いに、言葉や行動で感謝を伝える習慣をつけたいものです。コミュニケーション不足によるいらいらやトラブル回避も重要です。話さなくても分かってね、というのはお互いに誤解のもと。自分の意図した内容が正しく相手に伝わって、期待した(相手の)行動が確認できて、初めて意思疎通が成功したといえます。意図した反応が得られないときは、失礼かもしれませんがもう一度確認が必要かもしれません。

皆様のご家庭でもされているように、少しでも無駄を省き、気持ちの乗った仕事をする(したい)。これ、実行するのは大変です。自分や相手にとって意味のある働き方の改善アイデアを出してゆきたいですね。

### 2) 超高齢化社会が進んでいる中で

ご高齢の方に増えている心不全、認知症、がん、脳卒中、骨粗鬆症に関連した脊椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折、誤嚥性肺炎など、複数の疾患を同時に抱えている方をどのようにケアさせていただくのが良いでしょうか。経年的に活動性が低下してくる、同じ生活者としての視点でどのようにご支援できるで

しょうか。難しい問題です。

それぞれの方の持つ健康意識と生きがい(価値観)も考えさせられる問題です。病気は治すものという考え方から、年齢とともに病気や機能障害は自分の中で共存してゆくものに変化してくるところもあるでしょう。

ストレスの強い環境から身を守りつつ、身近な方と相談しながら共助できる職場づくりをしたいですね。答えはいろいろありそうです。

### 3) 感染症対策は続く

これは迅速に、動きながら考えて行動するしかないですね。危機感の程度は人それぞれ違いますが、できる限り同じ危機意識を共有して団結して動きましょう。皆さんと協力して予防、院内感染対策、ワクチン接種協力を粘り強く継続してゆきたいです。

一緒に喜んでもらえる仕事ができることを目指し、これからもよろしくお祈いします。





協和中央病院  
看護部長  
仁平 洋美

コロナ禍の情勢の中、医療従事者は感染対策、行動制限など多様な環境変化に対応し、努力しております。今年こそは希望に満ちた明るい年となりますよう、今年も看護部職員一丸となり看護の質の向上を目指して取り組んでいきたいと思っております。今回は、このような状況の中、「口から食べる」という支援を実践している摂食嚥下認定看護師の活動を紹介します。本年もよろしくお願いいたします。

## 摂食嚥下障害看護認定看護師の活動

### ①食べるにかかわるということ

私たちが「口から食べる」という行為は、生きていく上で必要な栄養を取るという大切な役割があります。しかし、何らかの理由で口から食べられないといった状態になることがあります。食べ物を口に入れ、かんで飲み込むまでの一連の動作をつかさどるのは脳神経です。脳出血や脳梗塞など脳血管疾患では食べる機能に障害を来すことがあり、食べるためには段階的な練習が必要になる場合があります。

また、他の疾患においても、加齢に伴い、食べる意欲の低下、筋力の低下や感覚機能、肺機能の低下などにより肺炎を起こしてしまう場合があります。加齢に伴う変化の改善は難しいが、さらに嚥下機能を悪化させている要因がないかを確認していきます。口腔内の乾燥や汚染、食事姿勢や自力摂取または介助の方法に問題がないか、現状に合った食事形態であるか等を確認します。それでも誤嚥を疑う症状があるときには、さらに精密な嚥下機能検査を実施していただくことがあります。

口から食べるリハビリは、基礎体力があり意欲的に取り組めることが効果にも影響しますが、現状を維持するだけでも精いっぱいな場合があります。そのため、直接食べ物を使用して食べ続けることが訓練につながるため、できるだけ早期から直接食べ物を使用して練習をします。しかし、最終的に経口摂取では十分な量が取れない場合は他の栄養経路が必要になってきます。

食事を食べていなければ肺炎にならないのかというそうではなく、食べていないときこそ、口腔内が汚染されやすく、細菌まじりの唾液を自然に誤嚥している場合があります。誤嚥していても咳反射が弱かったり出ない場合もあり、発熱してしまうこともあります。そのため、看護師の日々の口腔ケア、誤嚥しにくい姿勢調整、早期離床、呼吸機能の維持・向上が重要になってきます。

どちらにしても、肺炎等の合併症を起こさず生活していくためには、入院生活を支えている病棟スタッフとの連携が必要であり、支えになっています。

### ②多職種連携について

嚥下機能で検査を実施し、誤嚥という現象が起きている

協和中央病院 看護師長  
摂食・嚥下障害看護認定  
看護師

小河原 幸子

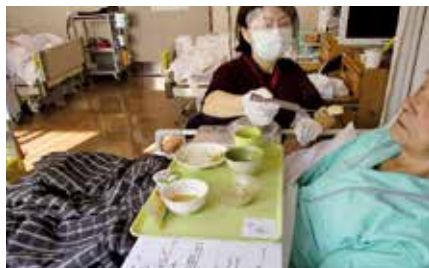


のか、誤嚥しにくい食事形態や姿勢を探り、実際の食事介助に生かせるように病棟看護師へ伝達して実施しています。実際1日3回食事場面があるため、食事介助の方法の統一をするために食事条件表を作成し、病棟看護師や看護補助者に実施していただいています。また、摂食機能療法を実施している患者様には、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師と摂食嚥下障害看護認定看護師で構成された嚥下支援チームとして介入し、嚥下訓練や口腔、姿勢、自助具等の環境調整について改善案の助言をして、病棟看護師と実践しています。自助具の一覧やとろみ使用患者一覧を作成し、多職種が共通認識、同じ粘度でとろみが作成できるように工夫しています。

### ③相談について

主治医や病棟看護師から、食事摂取で困っている患者様の相談があります。実際に食事場面を確認しますが、そこで初めてお会いすることがほとんどであるため患者様の一場面のみしか自分では確かめられません。しかし、嚥下機能を評価する上で、認識の様子や食事に対する考え、嗜好、入院前の食事の習慣、夜間の睡眠の様子や生活リズム、呼吸、排泄の様子など、さまざまな情報が必要になります。異常の発見や問題となる症状をとらえるためには、病棟スタッフの日々の観察が非常に重要になってきます。病棟スタッフと連携を図り、実践していくうちに、スタッフから患者様が食べられるようになってきたと聞くと、一緒にうれしく感じています。

「口から食べる」を支援していくことは、喉だけをみているのではないため1人でできることではないと感じています。入院生活では、医師をはじめ病棟スタッフやコメディカルと一緒に、患者様やご家族が満足して退院していただくことが私たち医療チームとしての一番の目標です。今後も「口から食べる、食べ続ける」ために取り組んでいきたいと思っております。



食事条件表をもとに病棟看護師での直接訓練の様子



嚥下支援チームでのカンファレンスの様子



病棟でのとろみ区分表使用の様子

薬 劑 科



協和中央病院  
薬剤科 科長  
川田 敏雄

医療技術の進展とともに薬物療法が高度化しているため、医療の質の向上、医療安全確保の観点から、薬の専門家である薬剤師が積極的に薬物療法に参加することが求められております。当薬剤科では、患者様の立場に立ち患者様が安心して薬物療法が受けられるよう、チーム医療の一員として安全かつ適正な薬物治療の提供に努めております。

すべての病棟に薬剤師を配置し、患者様が入院してから退院するまでの薬を管理しております。また、薬の用法・用量・副作用などをお伝えすることで、不安や疑問に寄り添い、安心して服薬できるよう心がけております。

外来の患者様にはインスリンなどの自己注射の手技指導や、手術前に中止が必要な薬の確認などを行っております。

当院で処方された薬について分からないことや不安なことがありましたら、薬剤師が相談に応じますので遠慮なくご質問ください。



調剤業務



抗がん剤の調剤



薬剤科スタッフ

検 査 科



協和中央病院  
検査科 副科長  
飯泉 さおり

協和中央病院検査科は、迅速・正確を重視し、親切丁寧な検査室を目標に各診療科から依頼されるさまざまな検査に対応するべく日々努力しています。

検査は大きく、血液や尿などの検体を扱う検体検査と患者さんを直接検査する生理検査の2つに分かれています。しかし、基本的には検査を実施するための装置を臨床検査技師が管理・操作し、検査結果を報告する流れはどの検査も一緒です。

そのため、検査室には大小合わせて30台以上のさまざまな検査装置が配置されています。毎年、数台の検査装置の更新を行っており、近々で更新した機器3機種を紹介します。



全自動免疫測定装置 HISCL-800

現在は甲状腺と新型コロナウイルス感染症のための血液検査に使用していますが、多岐にわたる分野の血液検査の可能性を秘めた装置です



採血管準備装置  
BC・ROBO-900

効率良く、正確な採血を実施するために必須の装置です



血圧脈波検査装置  
VaSera VS-2000

血管の硬さや詰まり(血管年齢)を直接患者さんに検査する装置です

こうして、検査機器の更新をすることで検査の質の向上や時代のニーズに沿った検査項目の実施につながるため、今後も必要とされる検査結果を提供できるよう検査機器更新を随時行う予定です。

# 冷え性と体調管理について

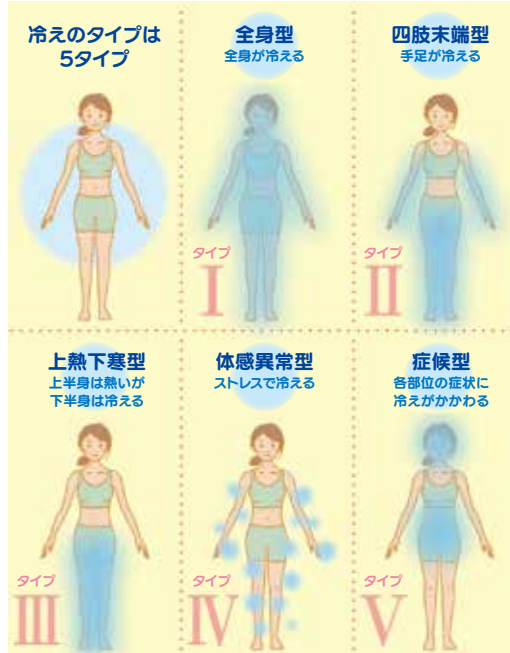
協和中央病院  
副院長 内科部長 玉野 雅裕

現在の日本人には冷え性がとても多いです。冷え性は通常の温度下で生活していても、身体に冷えを感じる状態であり、日本人の女性は、20～50歳代では8割が冷え性にあるという結果が報告されています。冷え性は女性のみならず、男性にも年々増えており、現代の日本では、男女を問わない国民病になりつつあるといえます。冷え性の人のうち、3割の人は冷え症の状態にあるといえます。冷え症の人は、身体に冷えを感じるだけでなく、頭痛、肩や首のこり、腰痛、全身倦怠感、疲労しやすい、便秘や下痢などの消化器の不調があり、治療しないと日常生活に大いに支障を来す状態であるといえます。

冷え症には5つのタイプがあり、1) 全身型といって全身が冷えて、慢性の胃痛や下痢などを常に起こしている状態、2) 四肢末端型といって手足がいつも冷えている状態、3) 上熱下寒型といって上半身が熱いが、下半身が冷えており、自分が冷え症と気がつかない状態、4) 体感異常型といって、ストレスなどが原因で感

覚がずれ、実際には身体が冷えていないのに冷えを感じる状態、5) 症候型といって心不全や慢性関節リウマチなどの病気があるため、身体の一部に冷えを感じる状態などがあります。冷え性を改善するためには、1) 食事療法 2) 運動療法 3)

漢方や鍼灸などの東洋医学の治療が有効であります。食事療法は、まずは冷たいものをやめることです。次に温かいものでも、緑茶やコーヒーは最終的には身体を冷やすので避け、紅茶、ほうじ茶などを飲むようにすると良いです。鍋物などを多く食べるようにするのも良いです。さらにシャワーをやめ、できる限りお風呂に入るのも有効です。日常生活では、大いに歩いたり、柔軟体操を継続すると良いです。漢方薬による治療もとても有効であり、これら日常の食事や運動の継続に注意を払いながら、身体に合った漢方薬を内服すると、体温が1度くらい上昇し、免疫力もアップし感染にもとても強くなります。冷え性が気になる方は、ぜひ東洋医学センターの漢方専門外来を受診ください。



## 寒い時期を乗り越えるためには

寒い時期に入り、冷え性で悩む方も多いかと思えます。「冷えは万病のもと」という言葉があるように、冷え性はさまざまな不調の原因となるだけでなく、免疫力の低下を招くといわれています。最近では、「温活」というほど、冷えに対するさまざまな取り組みがあります。これからの時期は特に冷えやすいです。今回は身体を温める食べ物や飲み物とレシピをご紹介します。

### 温める食べ物



#### ● 根菜を含んだ野菜

生姜、れんこん、ごぼう、にんじん、大根  
→ 体を温めることで免疫機能が活性化し、免疫機能が高まります。



#### ● 発酵食品

キムチ、甘酒、ヨーグルト、納豆  
→ 腸内環境を整えると、免疫力を高めることができます。



#### ● たんぱく質を含むもの

お肉、お魚、卵、大豆製品、乳製品  
→ 良質なたんぱく質の摂取は免疫細胞の動きを良くします。

食べ物を消化吸収する際に、エネルギーを使います。

これを食事誘発性熱産生と言います。

食後は安静にしているだけでも代謝量が増えます。

食後に体が温くなるのはこの働きがあるからです。

### 温める飲み物



#### 紅茶、甘酒、ルイボスティー

紅茶や甘酒に生姜を入れると辛み成分で血行を良くして、体の芯から温めてくれます。ルイボスティーは発酵茶でノンカフェイン。新陳代謝が活発になり、血流改善効果もあります。

※カフェインは利尿作用があり、体の熱が外に出やすいので注意しましょう。

(協和中央病院 栄養管理科 主任 石戸 利幸)

### 料理名:

#### 豚肉と大根の生姜煮



#### ● 使用食材

- 豚肉(薄切り)100g・大根100g・生姜10g(チューブでも可)
- 水200ml・顆粒だし大さじ1/2
- 酒、砂糖、しょうゆ 各大さじ1
- 長ねぎ、または青のり 適量

#### ● 作り方 調理時間 約30分

- ① お肉と生姜を炒める。
- ② 肉に火が通ったら、水とだし、酒、大根を入れて中火で煮る。
- ③ 大根に火が通ったら、砂糖、しょうゆを入れて汁気が1/3になったら、火を止める。
- ④ 最後に長ねぎ、または青のりを散らす。

※大根はあらかじめ600Wで6分加熱しておくことで調理時間を短くできます。

## 日中活動(余暇活動)が再開されました

すみれ園

新型コロナウイルスの感染が確認されてからおよそ2年、当初からいわれていた3密を避けソーシャルディスタンスを確保することが難しいため日中活動等を自粛してきましたが、令和2年10月より、個別で活動ができるものから段階的に再開してきました。当初は塗り絵・貼り絵、通所利用者様の映画、スヌーズレン活動のみの再開でした。利用者様、職員がワクチン接種を済ませたこと、周囲の感染者数が減少し日常生活においても行動自粛の緩和が始まったことから、令和3年11月よりカラオケ、書道、のれん、散歩の活動が再開されました。この再開により、多数の利用者様が日中活動に参加されることとなり、良い気分転換になっていると思います。現在においても密集を避けるため人数制限をしながらの実施となりますが、園内には活気が戻り、参加された利用者様の表情には以前の笑顔が戻ってきたように感じております。



すみれ園  
サービス管理主任  
**安達 弘毅**

依然、面会や外出等、制限のある対応は続きますが、今後も社会情勢を注視し、状況に合わせた柔軟な対応を行ってまいります。



## 董授園

## 新商品のご案内



董授園  
職業指導員  
**市村 真幸**

日ごろよりとんがり工房のパンをご愛顧いただきありがとうございます。令和3年12月より新商品の販売を開始しております。「塩だれチキンパン」「沖縄紅芋あんパン」「明太フランス」「シュガーフランス」の4点となります。

「塩だれチキンパン」は、薄切りにしたチキンを塩だれにつけ込んだ物をトッピングし、マヨネーズをアクセントにした商品です。「沖縄紅芋あんパン」は沖縄産の紅芋をふだんに使用したあんパンです。紅芋の風味が強く感じられる商品となっています。「明太フランス」はフランスパンに明太マーガリンを表面と切れ込みに塗り込み焼き上げました。明太子の風味がおいしい商品です。「シュガーフランス」はフランスパンにシュガーマーガリンをたっぷり塗り、焼き上げた商品となります。フランスパンと甘いシュガーマーガリンがお互いの魅力を引き立て合っている商品です。

今後も皆様のご愛顧をいただけますように、利用者様と職員が一人丸となって頑張っていきますので、新商品ともども、とんがり工房のパンを引き続きよろしくお願いたします。



「明太フランス」(左)と「シュガーフランス」



「塩だれチキンパン」(左)と  
「沖縄紅芋あんパン」

# 外来診療担当医表 令和4年1月

( ) 専門科目

診療科		月	火	水	木	金	土	
脳外科	午前	1	中原	中原	中原	中原	第1、3 中原	
		2	五味	長	黒川	黒川/第3 自治医大	大城	黒川
		3						第2、4、5 長
外科	午前	1	高坂	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
		2	松井	松井	高坂	松井	高坂	高坂
		3					松井	
内科	午前	1	玉野	玉野	玉野	玉野	海老澤 (漢方外来)	長山
		2	正和 (循環器)	大内	木村	増山 (循環器)	磯田	種ヶ島
		3	福島	磯田	阿部田	福島	岡 (内分泌内科/糖尿病)	(予約)新保 (循環器内科)
		5	岡田 (内分泌内科/糖尿病)	北川 (循環器)	磯田	阿治部 (消化器)	大内	
		7	小林 (呼吸器)		高橋 (呼吸器)	磯田		
	午後 (予約のみ)	1	阿治部 (消化器)	北川 (循環器)		小笠原 (神経内科)		
		2	清水 (循環器内科)					
		3	岡田 (内分泌内科/糖尿病)					
	●内科外来の午後は予約のみとさせていただきますのでご了承ください。							
	専門外来	午後	村田 (睡眠呼吸障害/予約のみ)	加藤(土) (漢方専門外来)				
小児科	午前	1	(予約) 中原	長尾	長尾	(新患予約) 中原	(予約) 中原	自治医大交代制
		2		(予約) 中原				第1 (予約) 中原
	午後	1	(予約) 中原	長尾		(予約) 中原		
		2	斎藤					
整形外科	午前	藤田		西頭	藤田	萩原	第1、3、4、5 木村	
●月・木の整形外科は予約と紹介患者様のみ、水の受付は10:30まで、金・土は大学診療のため時間前に受付終了となります。土(第2)は休診となります。予約外の患者様はお待ちいただけますのでご了承ください。								
痛みの外来	午前			(予約) 佐藤				
皮膚科	午前・午後		大久保			池上		
泌尿器科	午前		別納	武井	神原			
眼科	午前・午後		高山	高山 午前のみ	松原	高山 午後は予約のみ		
歯科 歯科口腔外科	午前 (土は午前のみ)	1	串田	串田	串田	串田	土肥	串田
		2	大谷津	大谷津	大谷津	大谷津	大谷津	齋藤
		3	岡田	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	岡田・土肥交代制
		5			杉浦	仙名		
	午後	1	串田	串田	串田	串田	土肥	
		2	大谷津	大谷津	齋藤	大谷津	大谷津	
		3	岡田	齋藤	杉浦	齋藤	齋藤	
		5	第4 尾田					
専門外来	午前	1	第3 野口			第1、3 森		
	午後	1	第2 神部					

## ※受付時間《午前の部》

月・火・木・金 (7:30~11:30) 診療開始 9:00  
 水・土 (7:30~11:00) 診療開始 9:00  
 歯科・歯科口腔外科 (8:30~11:00) 診療開始 9:00

※水・土の午後 及び 日・祭日は、休診です。

※診察の際は、保険証をご提出ください。

## 《午後の部》

皮膚科・眼科 (13:00~15:30) 診療開始 14:00  
 \*眼科(木) (13:00~15:00) 診療開始 13:30  
 内科 (13:00~16:30) 診療開始 14:00  
 小児科 (14:00~16:30) 診療開始 14:30

\*小児科(木)・中原医師予約 (13:00~16:30) 診療開始 14:00

歯科・歯科口腔外科 (13:30~16:00) 診療開始 14:00 水の午後も診療します。

※受付時間外及び休診日に救急診療を希望される方は、あらかじめ電話でお問い合わせください。

## 安心が地域に根ざす 社会医療法人恒貴会・社会福祉法人恒徳会

### 協和中央病院

脳神経外科・外科・消化器科・内科・漢方内科  
 ・呼吸器科・ペインクリニック内科・整形外科  
 ・小児科・放射線科・皮膚科・泌尿器科  
 ・リハビリテーション科・麻酔科・眼科  
 ・歯科・歯科口腔外科

茨城県筑西市門井1676番地1  
 電話0296-57-6131(代)  
 E-mail: kyowa@kokikai.com

### 療養病床

### 協和南病院

茨城県筑西市門井1674番地1  
 電話0296-57-5133(代)  
 E-mail: minami@kokikai.com

### 介護老人保健施設

### 協和ヘルシーセンター

茨城県筑西市門井1669番地2  
 電話0296-57-6030(代)  
 E-mail: healthy@kokikai.com

### 大和クリニック

茨城県川口市大玉2513番地12  
 電話0296-58-7788(代)  
 E-mail: yamato@kokikai.com

### 訪問看護ステーション

### 愛美園

茨城県川口市大玉2513番地12  
 電話0296-20-6780(代)  
 E-mail: aibien@kokikai.com



### 障害者支援施設

### すみれ園

茨城県筑西市門井1677番地21  
 電話0296-57-5125(代)  
 E-mail: sumireen@kohtokukai.jp

### 障害者支援施設

### 堇授園

茨城県筑西市門井1687番地1  
 電話0296-57-3400(代)  
 E-mail: kinjyuen@kohtokukai.jp

### 障害者支援施設

### 桃香園

茨城県川口市大玉2513番地10  
 電話0296-58-7870(代)  
 E-mail: tohkaen@kohtokukai.jp

### 新型特別養護老人ホーム

### 恒幸園

茨城県筑西市向川澄98番地1  
 電話0296-57-7268(代)  
 E-mail: koukouen@kohtokukai.jp



## 編集後記

明けましておめでとうございます。

新年のお忙しい中「はぐるま106号」を手にとっていただきありがとうございます。

新型コロナウイルスを意識した生活が続きますが早く終息し今までの生活に戻ればと願うばかりです。共にコロナ禍を乗り越えていきましょう。

今後も協和中央病院グループ広報誌「はぐるま」では病院や各施設の取り組みや皆様にお役に立てる情報を掲載していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

最後に「はぐるま106号」発行にあたりご協力していただいた皆様、大変ありがとうございました。

(飯田)

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。

●発行責任者/長山辰治

●編集委員/相澤明美 飯泉茂徳 杉田恵美子

野村正浩 高松紀平/飯田信宏 渡辺昌彦